

福島県PTA連合会会報
第62号_H15.12.05

第62号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

PTAふくしま

子どもたちに「生きる力」を

～5分科会バズセッション～



原町大会をふりかえって



原町大会実行委員長
但野義和

第五十二回福島県PTA研究大会原町大会が、県内各地より二千余名の会員の皆様をお迎えし、盛會に無事終了できましたことは、会員皆様の深いご理解とあたたかいご支援ご協力の賜ものと心より感謝と御礼を申し上げます。
今大会は、「子どもたちの自立と共生を育むPTA活動」を大会主題に掲げ、二十一世紀を担う子供たちに自ら学び自ら考える力を育成し、何事にも主体的に対応できる資質や能力と自然や人、地域など自分を取り巻く全てのもとと協調しながら、共に生きる心の豊かさを育むことが重要であるとの考えを基本として開催いたしました。

大会初日は、六つのテーマごとに分科会が行われ、PTA活動を活性化する組織運営の工夫や子供たちの「生きる力」を育成し、家庭と地域の教育力の充実などについて、提言者の発表の後、参加会員との活発な議論が行われました。特に、第五分科会では二十名程度のグループごとに討議を行うバズ・セッション形式を取り入れ、参加者全員が意見を交わし合う分科会となりました。
また、二日目の全体会では、記念講演にシンガーソングライターの梅原司平氏をお招きし、「ここへおいで」〜一度も失敗しない人生なんて、何もなかったことと同じ〜と題し、これまでの活動体験をもとに、トークと心に響く歌で会場内の会員が涙を浮かべるなど感動の講演となり、大好評を得ることができました。しかし、交通案内や駐車場、宿泊関係など行き届かない点もあり、また、分科会の終了時間が遅れ参加会員の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことなど、反省しなければならぬこともありました。
今、私たちの抱える課題は多岐にわたり、これまでの常識では通用しない問題も増えております。これまで以上にPTAの活動が期待されている時ではないかと思えます。この原町大会の成果が夢ある子供たちの未来を育む活動の契機となることを期待いたします。

県P連研究大会に参加

○第一分科会組織運営

福島市P連会長

小松 良行

第一分科会（組織運営）は、「PTA活動を一層活性化する組織運営を工夫しよう」を研究テーマに据え、独創的で論客の提言者と熱心な参加者の質疑により活発な研究討議となりました。会場責任校にあられた原町一中の皆様とご参加いただきました皆様から感謝と御礼を申し上げます。

さて、今般は少子化や世帯数の減少に窮する学校も多く、取り分け小規模校で大きな問題になっているようです。こうした状況の中で、PTA全会員参加の取り組みや楽しく活動できる行事の持ち方についての工夫。更には、地域の方々と公民館との連携を強化し、積極的に活用を図ることが重要となります。また、省力化のためにはPTA組織の簡素化、卒業生や地域の賛助会員制の導入を図るなど、新たな施策の提言もあり大変参考になったと思います。

一方の都市化が進む大規模校では、会員一人一人の結びつきが希

薄化してきており、単に行事を消化するため、組織運営のための組織なのか？と疑問を感じる役員も少なからずおられるようです。PTA本来の目的に立ち返り、もっと自主的で主体的な関わりをもつことが大切であります。また学校、家庭、地域社会の連携もさることながら、それぞれに教育責任の明確化を図る必要があるようです。社会全体の子育てとは、これらの実現の上には、はじめて成り立つものではないでしょうか。

学校五日制の影響でPTA行事は縮小される傾向にあります。活発な組織運営を期待されてもこれ以上は担い切れないというPTA役員の本音も洩れ聞こえ、一様には行かない問題解決の取り組み方等々、あらためて組織運営の難しさを痛感させられました。



○第一分科会研修活動

両沼地区P連会長

田部 義康

第五十二回福島県PTA研究会原町大会が大きな教育改革の二年目を向かえる中で開催され、PTA活動も、めまぐるしく変化する社会情勢と、子供達を取巻く環境に併せて、時代が求める形へとその方向を確実に見定めることが必要な時期であると考えております。

このような中で、第二分科会においては、「会員の資質の向上を

○第三分科会家庭教育(小)

南会津P連会長

貝田 美郎

第三分科会、「生きる力」を育む家庭と地域の教育力の充実について考えよう。」のテーマのもと、原町市立石神第二小学校において、会員四百五十名の参加をいただき開催されました。

霊山町立小国小

「図る研修活動を創造しよう」をテーマに、三校からの日頃の積極的な活動からの提言があり、それを軸に充実した意見交換が行われました。提言者の皆様、指導助言の先生方には感謝申し上げます。各単P活動に有意義に生かしていたいただきたいものです。

県PTAの中で、研修委員長という立場から、研修活動の創造について考えておりますことは、研修とは、研修会への参加や、講演会への出席だけではないということとあります。それぞれの中で、日頃の社会生活やPTAを通じた活動の中で、様々なことに取り組

学校が、「教育力の充実をめざし、学校と地域を結びつけるPTAの取り組み」、館岩村立館岩小学校が、「みんなで育てる生きる力、学校、家庭、地域の連携」、いわき市立小名浜東小学校が、「子どもたちと地域との関わり方」とし、実践事例をもとにすばらしい提言がなされました。

現在、私たちは、「学校、家庭地域と一体となって子どもたちを育てましょう。」という中、三校とも地域との繋がり、在り方についての発表となり私たちPTA活動のひとつとして、大変、参考になったのではないのでしょうか。

私自身も色々な役職の中で、地

むことのすべてが個々人の研修活動につながるものであると考えております。特に私たちの場合、共に「子育て」の時代であり、PTAに参加しているわけであり、生涯教育が盛んに言われる今日、学校、地域を通じて、子供達にかかわることに参加することすべてが自分自身についての研修であると考えております。

五十二回を迎えるこの大会も、私自身は、今回が四回目の参加となりました。会場の意見から、開催方法の工夫の必要性も感じられました。今後のこの大会の発展をお祈り申し上げます。

域の方々へアピールし、子どもたちに目を向けてもらうことにより保護者、学校が意識的に変わることを望み活動しております。

この分科会で学び、考えた事、そして既に皆さんのところで活動していることが、子どもたちにとって現在、未来と役に立つことと信じております。

最後に、第三分科会の運営にあたり、石神第二小学校、山尾校長先生はじめ職員の皆様、鈴木PTA会長はじめ保護者の皆様方のご尽力と心配りにたいしまして心より感謝申し上げますとともに、皆様方の今後のご活躍をご祈念申し上げます。

○第四分科会家庭教育(中)

岩瀬地区P連会長

水野 武 和

教育改革二年目の年、第五十二回県PTA研究大会原町大会が開催されましたこと、心よりお祝い申し上げますと共に、但野実行委員長はじめ各実行委員の方々、また関係各位の皆様方にお礼を申し上げます。

大会主題「子どもたちの自立と共生を育むPTA活動」のもと、第四分科会は、家庭教育中学校「生きる力」を育む家庭と地域の教育の充実について考えよう。を三つの協議視点で進められました。提言者の信陵中学校山田様は、

地域に学ぶ体験活動、国際交流の実施、先輩たちとの語り合う会、など教育改革二年目の実践の取り組みの中に多くを学ばせて頂きました。また、小野町浮金中学校西牧様は、親子ふれあいデイ、クリーン作戦、アルミ缶回収、PTA会費全家庭参加など、子供のい

○第五分科会健全育成

双葉地区P連会長

猪狩 一 男

「健全育成を環境づくりから推

ない家庭までも学校に協力している姿は、大人としての義務を感じました。さらに、双葉町立双葉中学校渡邊様は、進路についての親の意識、進路選択を育むPTA支援、職場体験PTAの協力など、親と学校が子供の進路を本気で考え実践しているPTA。三校とも地域にあった素晴らしい活動の経過を報告されました。各学校とも私たちPTA活動がどうしても必要なのか、今子供たちが何を求めているのか、そして学校がPTAに何を協力してほしいのかを理解できました。少ない時間の中ではありましたが、活動あふれる第四分科会に参加されていただき、関係各位の方々に心より感謝申し上げます。

さて、次年度五十三回は岩瀬地区大会であります。すばらしい原町大会を参考に、岩瀬地区の特性を生かしながら、皆様に満足頂けるよう準備を進めておる所でございます。自然豊かで人情味あふれる岩瀬の地で皆様のお越しを心からお待ちしております。

進しよう」をテーマとした第五分科会は、各地からの提言と併せて、参加者が「バズ・セッション」(小集団討論)を行う中から、黙

集会において、参加意識の昂揚と

各人が発言することによる参加したことを実感できるよう設定されたものとして、その企画・運営の御芳苦に敬意を申し上げます。

三名の方からの提言は、学校週五日制への対応や学校間の連携、PTAの活動の活性化などについて、参加者の誰もが相槌を打つ内容で、かつ誰しもが持つ悩みであったろうと思います。昨今特に、児童・生徒が被害者

第六分科会養護教育

伊達地区P連会長

春日 和 光

第六分科会では、「特別な支援を必要とする人との共生を積極的に推進しよう」のテーマのもと、三校の発表と話し合いがもたれた。

まず、柳津小学校PTA会長の新井田昇氏は『地域の人と交流と連携を深めるうちに「かわいそう」から「頑張ってるね」に意識が変化してきたが、障がい人の個性で特別視しない、共に生きる社会はまだまだ至っていない、啓蒙が必要だ』と語った。

次に、須賀川養護学校PTA会長の浮ヶ谷興一氏は「障害のある子ども達の相互理解のために、地域行事への積極的な参加を今後も

となる事件が頻発しているなかで、学校や保護者だけでなく地域全体で子どもたちを守る環境作りが各地で繰り広げられています。「大人が変われば子どもも変わる」と言われた矢吹中学校PTA栗原会長の発言が印象的でした。

また、二十のグループに分かれての討議では、提言者も積極的に加わり、具体的な活動等について更に意見交換が行われました。今

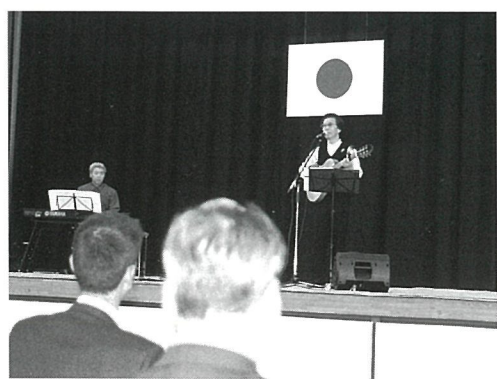
進めていきたい」と、校内・校外研修の実施状況や課題を発表した。鮫川小学校PTA会長の前田博之氏は「校内での取り組みを通して、協力学級、養護学級の壁を乗り越え、健常者も障害者もどちらかが合わせて楽しむのではなく、どちらにとっても同じように「おもしろい！」と感ずることができた」と熱く語った。

最後に、指導助言者の県教育庁特別支援教育グループ指導主事・塚野薫先生は「特別支援事業のコーナーにネットを配置し、巡回指導員を向かせて相談支援する事業を実施しているので活用してほしい」と述べられた。

回のように、いろいろな意見を見・聴きすることは大変貴重なのだと思います。

午後一時三十分が始まった分科会は終了予定時間を大幅に超えるほどの活発な意見交換が行われました。時代が大きく動いている中で、柔軟な対応が求められている。これからのPTA活動にとって大いに参考となる分科会だったと感じています。

晴らしい。そのためにも地域社会に障害者がいることを周知させる必要がある」と結ばれた。会場では、参加者の日頃の悩みや質問が相次ぎ、内容の濃い活発な分科会であった。と同時に、各教育事務所ごとでの話し合いの場の必要性を感じてまいりました。



栄えある表彰 おめでとうございます ございます

平成十五年度の表彰式は、去る十一月十九日東京のホテルニューオータニで行われました。

◆文部科学大臣表彰

団体表彰

会津若松市立城西小学校 P T A

田島町立針生小学校 P T A

個人表彰

早川 敬介 (前県 P 連会長)

◆日本 P T A 全国協議会会長表彰

団体表彰 (三校)

会津若松市立東山小学校 P T A

原町市立石神第一小学校 P T A

いわき市立平第一小学校 P T A

個人表彰 (年度表彰)

熊本 光義 (前県 P 連副会長)

佐藤 友宏 (前県 P 連副会長)

加藤 征男 (前県 P 連副会長)

荒海 健二 (前県 P 連副会長)

白石 高司 (前県 P 連理事、日 P 評議員)

山田 和江 (前県 P 連理事、日 P 評議員)

感謝状表彰 (五年毎)

藤原 清 (元県 P 連理事)

須田 尚 (前県 P 連理事)

神林 哲 (元県 P 連理事)

春日 和光 (県 P 連理事)

平舘 泉 (前県 P 連理事)

遠藤 静子 (前県 P 連理事)

石井 庄一 (元県 P 連理事)

鳥取りレポート

いわき市母親委員長
県 P 連理事
手島 まり子

第五十一回日本 P T A 全国研究大会鳥取大会が、八月二十九・三十日の二日間に渡り、米子市を中心に鳥取県内十会場で開催されました。

「絆と実践で子どもたちの未来を育む P T A」を大会スローガンに掲げた本大会の中で、私は特別分科会「学力について」に参加をさせて頂きました。

基調講演は、尾道市立王堂小学校校長の陰山英男先生による「生きる力と学力」。陰山先生は、読み書き・計算の習熟を土台とした教育を実践してこられた方で、二〇〇〇年十月に NHK「クローズアップ現代」で紹介されました。「本当の学力をつける本」「徹底反復シリーズ」の著者としても全国的に知られています。

「ゆとり教育」への疑問の投げかけや盛んに言われている「学力低下」についてもさまざまな統計分析をまじえながら、分かりやすく端的な話し方で、次のような問題提議をされました。



「学力は人が生きていく上での一部の力であり、体力・気力と同様に見るべき」と。また、「学力低下だけが一人歩きをしているが、現状はそれだけではない。体力や気力に関しても低下傾向が見られ、体力が伴わなければ、頭脳も働かなくなる。」

見落としているこの現状と向き合うこと・今、子どもたちに何が起きているかを見極め、対策としての教育ではなく、将来を見据えた教育の必要性を深く考える機会となりました。実に有意義な大会であったと感謝しております。開催地関係者の皆様には、心よりお礼申し上げます。

石巻レポート

東白川郡 P 連事務局長
下重 秀俊

初秋の穏やかな季節の中、去る九月十三日、十四日の両日自然の魅力あふれる宮城県石巻市において日本 P T A 全国協議会第三十五回東北ブロック研究大会へ東白川郡を代表し、参加させていただきました。

駅前からのシャトルバス、緑豊かで閑静な石巻専修大学、きめ細かな案内表示、身も心も温まるさんまのつみれ汁と研究大会の舞台が滞りなく準備され、初日の分科会では、第五分科会の『家庭・地域と中学校教育』に関わることができました。

各パネリストがそれぞれの立場やおかれている条件や環境から意見を述べられ、コーディネーターの見事なリードにより活発な意見や考えが出され、

子どもたちの社会体験を教育現場の中にどう組み入れていくか。
○望ましい進路指導を家庭と学校でどう向き合っていくか。

等話題の柱になりました。感想としまして、家庭、地域のそれぞれの役割が再



確認できて、家庭、地域社会と学校がどう具体的に手を取り合い、課題を軌道修正していくか見通しが立てられ、P T A の一員として大変よかつたと思います。併せて、P T A の大会規模が大きくなればなるほど、子どもへどう具体的に焦点を当てていくか考えさせられました。中村雅俊氏による記念講演も大会に花を添えられ、私自身たくさんのおみやげをいただき帰路につきました。

最後に大会に向けて長い期間の諸準備や運営に当たっていただいた皆様方に御礼を申し上げ石巻レポートとさせていただきます。ありがとうございました。

◆東北P連会長表彰

団体表彰

- 二本松市立二本松第一中学校PTA
- 安達郡東和町立北戸沢小学校PTA
- 郡山市立芳山小学校PTA
- 郡山市立熱海中学校PTA
- 天栄村立湯本小学校PTA
- いわき市立小名浜第一小学校PTA

個人表彰

- 平館 泉 (前県P連理事)
- 須田 尚 (前県P連理事)
- 遠藤 静子 (前県P連理事)
- 猪狩 雄一 (前県P連理事)
- 古内 利勝 (前県P連理事)
- 大栗 睦彦 (前県P連理事)

◆福島県PTA連合会会長表彰

感謝状

- 早川 敬介前会長他三十名

団体表彰

- 保原町立松陽中PTA他二十六団体

個人表彰

- 坪井 大雄 (福島) 他百二名

※全名簿は、県P研究大会原町大会要項に記載してありますので参照ください。

小学校部会

県P連理事 (母親代表)

渡 邊 香代子

「基本的生活習慣を身につける場としての家庭の役割」と題しての今回の母親代表者懇談会は、社会教育主事の瀬谷真理子先生を講師にお迎えして開催されました。少子化や核家族化、そしてめまぐるしく変わる社会情勢の中で、子ども達が心身ともに健やかに成長するための家庭の役割や地域との連携などについて、様々な角度から御講話を頂き、午後の懇談会へ

移りました。

小学校部会でのテーマは特に決まらず、瀬谷先生の御講話の中から、親として、今一番気になっている子どもとの関わり方、しつけなど、またPTAとして円滑に運営を行うための組織づくり、魅力あるPTA活動や家庭、学校と地域とのかわりなど、それぞれが抱えている様々な問題点や活動事例について、三グループに分かれて活発な意見が交わされました。親として、PTAとして抱えている問題は参加された皆さんが共通に感じられているようです。しかし、地域性、学校規模などによ

って捕らえ方も違い、それぞれの単位PTAや地域での取り組みは、大変参考になるものでした。昨年度から学校完全週五日制、新学習指導要領が実施されまして、改めて家庭、地域の役割というのを考えていかなければならない時期ですので、今回の懇談会、一時間三十分という時間では足りないほど多くの意見が出されました。参加された皆さんそれぞれに、この懇談会の中で少しでも改善策を見つけていくことができたのではないかと思います。

また、こうした懇談会が開催されますことを期待しております。

第九回県P連都市P母親代表懇談会

中学校部会

県P連理事 (母親代表)

塩 田 米 子

私達が子供の頃は、大家族の中で育ち、自然に人との関わり方、身につける事ができましたが、今は豊富な物の時代に生き、核家族の中で育ち、社会性・人間性が育ちにくい環境の中にいます。その為、講話では、親が意識して学習し子供と向き合う事が大切だとい

うお話でした。躰は、親が出来る最高の贈り物と自覚し、毎日手伝いをさせる (責任感・感謝の心) 家庭の中でルールを作る (自分に律する心) 小遣いのやり繰りをさせる (金銭感覚) 地域の活動に参加させる (人との関わり合い) 事が大切です。また、自己肯定感や自尊心を育てる為に、大人が結果で評価する事を止めて、その過程の中で、ほめる事や励ます言葉かけをする事や、失敗の経験をさせて、それを乗り越える事の出来

る力を持たせる事が重要です。そして、愛されているという実感が持てるように、誕生日等の記念日を意識して設定してほしいという事でした。また、性非行の問題もあげて、命の大切さも教えなければいけないという事でした。午後は「思春期の子供の関わり方」「情報社会に生きる」「地域・家庭の関わり方」等テーマを各クラスで決めて話し合いが行われ、子供達には、人は色々な人と関わりを持って生きていく事、ありのまま

の親の姿を見せる必要があり、そこから、人のつき合いを学ばせる必要があるという結論が出ました。最後に、助言者より、性の問題は正しく理解されているかが心配であり、寂しさや心を満たす為に性非行に走るのではないかと。躰とは、身を美しくすると書くように人にうしろ指をさされたくないという話がありました。

日程・内容	
・参加者	各都市P連2名 (小1、中1)
◆日時	8月22日 (金) 10:00~14:40
◆場所	県青少年会館 (福島市)
◆日程・内容	
開会行事	10:00~10:25
講 話	10:30~12:00
講 師	瀬谷真理子先生 (県社会教育主事)
小中別懇談会 (バズセッション)	12:45~14:20
助言者	(小) 佐久間研修部長
	(中) 山浦会計部長
閉会行事	14:25~14:40

ご応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認ください、多数のご応募をお待ちしております。

- ・締切 平成16年1月末日
- ・送付先 県PTA連合会事務局

◇PTA広報紙、学校新聞コンクール

このことについては、実情に応じてそれぞれ発行されておられることと思います。どうぞ、ふるってご応募くださいますようお願いいたします。

- ・締切 平成16年3月25日
- ・送付先 福島民友新聞社事業局内コンクール係

年末年始の交通事故防止を

「うつくしま 無事故の主演 あなたです」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が下記により実施されます。

- ・期間 平成15年12月10日(水)～16年1月7日(水)までの29日間
- ・運動の重点
 - (1) 飲酒運転の追放
 - (2) 夜間の交通事故防止、特に高齢歩行者の事故防止
 - (3) シートベルトとチャイルドシートの着用の徹底

県警の資料によりますと、県内での交通事故発生件数、死者数、傷者数は、前年同時期に比して減少しております。会員の皆様には、一層事故防止に取り組んでいただきますようお願いいたします。

本安全互助会加入の学童については、4月から11月末現在の交通事故による死亡者数は4名です。4名とも小学生で、幼稚園児と中学生はゼロです。

年末年始は、交通事情が大きく変化します。そのような中で、事故ゼロに向けてどう対応したらよいかを「運動のスローガンと重点」に基づいて、家庭で、学校で、地域で…必ず話し合い、その実践をお願いします。



編集後記

近年、子どもの誘拐やそれに類した事件、子どもへの暴行などが多発しており、強い憤りを感じる。

このような事件から子どもたちを守ろうと、数年前に子ども避難の家などが各地区につくられたり、子どもたちに防犯ベルを持たせたりなどの取り組みがされてきた。

これら対策の評価をふまえながら、更なる取り組みとして、単位PTAや自治体などでいっそう組織的な取り組みをはじめている。大変ありがたいことである。

同時に、子どもたちへの指導をどう進めるかも考えたい。「知らない人は皆悪人」的でない指導を。子どもたちの人間形成に関わる重大なことである。

(S・K)

安全互助会から【お知らせ】と【お願い】

1. 賠償補償の事故が発生した場合の手続きについて

- ・学童の休み時間や放課後などの賠償補償事故発生の場合、ケースによっては補償対象となりますので「賠償事故報告書」を「県P連事務局」にFAXで送付してください。(対象の是非を判断し連絡いたします。)
- ・事故が発生した場合は必ず傷害・賠償の「事故報告書」を「県P連事務局」にFAXしてください。報告書が先です。その後、申請書等の提出となります。報告書用紙がない場合は、「事務取扱概要」よりコピーしてお願いします。なお、FAX送付の際、特に必要がない場合、送り状を付けずに送付ください。

2. 平成15年4月から10月まで受理し見舞金を支払った事故件数(昨年同時期比)

- 〈傷害〉学童 1,952件(+53)、学童(死亡)4件(-4)、PTA139件(+20)、計2,099件(+69)
- 〈賠償〉学童150件(+32)、PTA9件(+1)、計159件(+33)
- ・主な賠償の例
 - 人身事故(相手にけがをさせた。一自転車走行中が目立つ)
 - 財物事故(自動車、ガラス、物損一壁やフェンスの破損、農作業小屋の焼失など)
 - PTA活動中の事故(球技大会での物損、借用物破損、相手にけがをさせた。など)

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険株式会社

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階
TEL 024-523-3507 FAX 024-523-3509